

本校は、平成16年11月に策定された「東京都特別支援教育推進計画」により、中学部・高等部の6年間を見通した教育課程を編成し、大学進学等を目指す中高一貫型ろう学校として平成18年4月に開校し、今年度創立17年目を迎えた。聴覚に障害のある生徒一人一人の実態に応じて、基本理念に基づく教育目標を達成するため、特色ある教育活動を展開し、確かな学力と社会性を身に付け、『希望する進路の実現に向け真摯に取り組む、自立を目指し社会に貢献する生徒を育成』する学校を目指す。

1 令和4年度の取組と自己評価

(1) 人権教育の推進

○教職員の言動、態度等について自覚を促してきた。引き続き人権尊重を基盤とした教育の理解を深めていく。

(2) 学習指導の充実

○デジタルワイヤレス補聴援助システム（ロジャー）を導入した。併せて文字情報も視覚的に入れるように工夫した物品（レルクリア）を導入した。今後、有効活用に向けた取組みが必須である。

○学習支援アプリケーション等の活用におけるスタディサプリの導入及び活用を図った。字幕機能が不十分で聴覚障害者にとって視聴に課題がある。

○令和6年度全日本ろう教育研究大会東京大会主管校として、校内の研究組織の活性化に向け取組んだ。3年間の見通しをもち、研究テーマを設定し、研究を積み上げていく。

○研究部を中心に授業改善につながる取組みを継続して行った。授業評価シートの活用を図り、お互いに授業観察する機会を設定した。

○学校運営連絡協議会のアンケートにおける学習評価

興味・関心が持てる授業の工夫の項目 生徒 90% (R3)→90% (R4) 保護者 75% (R3)→77% (R4)

授業内容の理解について肯定的な評価 生徒 91% (R3)→89% (R4) 保護者 72% (R3)→78% (R4)

(3) 進路指導・キャリア教育の充実

○進路実現に向け、各学年において、自己を知り目標に向けた指導の充実を図った。

○高等部3年進路決定100%（21名）国公立大学2名私立大学17名専攻科1名専門学校1名 合格

(4) 安全教育の充実

○都教委事故報告件数は1件。

(5) 健康づくり

○スクールカウンセラーモデル事業を通じて、生徒の心のケアを図り、校内の教育相談体制の充実を目指し、生徒の心の悩み相談を中心に取組んだ。次年度に向け、スクールカウンセラーが直接教職員に対し研修する時間を確保していく。

(6) 聴覚障害のセンター的機能

○広報活動を充実させ、本校の教育活動の理解推進に取り組んだ。まだまだ十分ではなかった。

入学者選考において、前期、中学部 3.2倍、後期 中学部 1.4倍 高等部 1.4倍であった。

(7) 組織的な学校運営

○ライフ・ワーク・バランスの実現を目指し、教職員の業務改善、会議等の精選・効率化、教職員の在校時間の縮減について取組んだが、十分ではなかった。

(8) 行政系の組織目標

○経営企画室の機能の充実及び学校経営への参画を目指したが、年度当初からの病気休職者及び年度途中の病気休暇取得者により、円滑な運営とはならなかった。

2 重点目標への取組と自己評価

1 人権を尊重した教育の推進 (ア) いじめ、体罰防止、自殺予防等に関わる校内職員研修の実施 (イ) 教職員のことばかけ、服装等の身だしなみの改善	年2回 全教職員	B B
2 学習指導 (ア) 中学部のサポートスタディ (イ) 朝学習の計画的な実施 (ウ) 夏季休業中の補講 中学部・高等部9日間実施 土曜講座実施 (エ) 英語検定、漢字検定、情報処理検定の受検促進 (オ) 全教員による研究授業実施 (カ) 全教員による他教員の授業参観 (キ) 生徒の授業評価実施	年30回実施 通年 年10回 通年 一人1回以上 年間3回以上(授業観察シート提出) 年2回 肯定的な評価割合90%以上	A A B A B B B
3 進路指導 (ア) 職場体験、キャリア講演会、先輩の話を聞く会実施大学生交流会・講演会 (イ) 学習支援アプリケーションを活用した進学指導の実施 (ウ) 中学部、高等部卒業学年生徒の進路実現	年2回以上 通年 100%	A B A
4 生活指導 (ア) SNS 中央ルール指導の徹底及び SNS の利用に係る5年生と1年生の交流授業 (イ) 登下校のマナー等、社会におけるルール指導の徹底	実施年1回 通年	A B
5 特別活動 (ア) 近隣における奉仕活動実施 (イ) 年間の交流及び共同学習(部活合同練習、生徒会交流、他障害など) (ウ) 図書委員会及び生徒会による読書発表会開催	年2回 年10回以上 各学部年1回	A A A
6 健康・安全 (ア) 生徒の安全確保及び安全指導日における教室等環境整備チェック (イ) 食育推進委員会による協議 (ウ) 「給食一口メモ」による食育指導実施 (エ) 週に1回定期的に来校するスクールカウンセラーを活用したカウンセリングの充実 (オ) セーフティ教室の実施 (カ) 3、4年生による1泊2日宿泊防災訓練を実施 (キ) 職員検診受診率	事故0件月1回点検 年2回実施 通年 通年 年1回 年1回 100%	A A A A A A B
7 特別支援教育のセンター的機能 (ア) ホームページの更新 (イ) 中学校等への聴覚障害に関する出前授業(理解啓発授業)実施 (ウ) 学校公開、オープンキャンパスの実施 (エ) 児童、生徒、保護者からの相談対応 入学希望者(中学部20名以上 高等部17人以上) (オ) 小学校や中学校の各区市のコーディネーター研修会や難聴学級設置校訪問	年間を通じて随時 年間を通じて随時 外部見学者年間200名以上 20回以上	C B A A B
8 学校経営・組織体制 (ア) 主任教諭連絡会 (イ) 在校時間11時間以内を目指し、月2回の定時退勤日を設定 (ウ) サービスの厳正、個人情報の保護等に関する研修会の実施 (エ) 適正な学校予算の執行 (オ) 環境整備委託業者との定例連絡会毎月実施	年3回 四級職連絡会 年間を通して実施 年間を通して実施 年間3回 年間を通して実施 一般需用費センター契約率50%以上	A B B C B

A: 100%達成できた B: ほぼ達成できた C: 十分達成できなかった D: ほとんど達成できなかった

3 次年度以降の課題と対応策

- (1) 「ろう学校」の更なる魅力の発信(広報活動の充実)を目指す。中学部生高等部生の募集対策を強化するために、ホームページ等を活用し、生徒の実態に即した指導内容・方法等の教育実践を発信し、聴覚障害者の理解啓発及び教育相談につながる活動の充実に向けて取り組む。
- (2) 自主的・自発的な学習の充実に向け、中高一貫のキャリア教育の全体計画を踏まえ、各教科と連携し、各学年で取り組む内容を精査し、系統的な指導の充実を促進する。
- (3) 情報保障体制の充実を図る。音声、文字情報、手話などの有効な活用について検証し、最新機器への対応及び手話技能等向上に向けた研修体制を構築する。
- (4) 働き方改革について、教職員の業務改善、会議等の精選・効率化、教職員の在校時間の縮減に向けての更なる取組みを行う。引き続き、学年分掌等での年度反省を踏まえ、各部署での業務内容を精査し、業務削減に向けた努力を進めていく。